

Weekly Oil Market Review 19第11号

2019年(令和元年)

6月21日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター

電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422

〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

概況

6/6~6/12のNYMEX・WTIは、51.14~53.99ドルの範囲で推移した。

6月13日は、ホルムズ海峡近くのオマーン湾で日本船を含む2隻のタンカーが何者かの攻撃を受け炎上、中東における緊張や原油安定供給への懸念の高まりから、反発した。一時は、53.45ドルまで上昇したものの、同日発表のOPEC月報が2019年の世界の石油需要見通しを下方修正するなど、経済の先行き不安も強く、上昇は限られた。7月限終値は前日比1.14ドル高の52.28ドル。

週末14日は、トランプ大統領が前日のタンカー攻撃を「伊朗が行なった」と名指して非難、緊張の高まりから、続伸した。ただ、前日に続き、同日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報も2019年の世界需要の伸びを日量120万バレルと前月見通しを同10万バレル下方修正したことから、上値は重かった。また、ベーカーヒューズ社発表の米国稼動リグは788基の前週比1基減となった。7月限終値は前日比0.23ドル高の52.51ドル。

週明け17日は、5月の中国鉱工業生産が前月比マイナスを記録するなど世界経済の先行き懸念から、3営業日ぶりに反落した。ただ、ホルムズ海峡付近でのタンカー攻撃後の緊張の高まりもあって下値は限られた。7月限終値は前週末比0.58ドル安の51.93ドル。

18日は、朝方、トランプ大統領がツイッターで習近平主席と電話会談を行ったとしてG20での首脳会談の開催を明らかにしたことから、米中摩擦解決への期待が高まり、買いが膨らんだ。また、シャナハン国務長官代行が中東への1000人の米軍増派を発表、イランをめぐる緊張の高まりもあり大幅

反発した。7月限終値は前日比1.97ドル高の53.90ドル。

19日はEIA在庫週報で、原油が前週比310万バレル減と市場予想(110万バレル減)を大きく上回る3週ぶりの取り崩しが報告され買い進まれたが、買い一巡後は利食い売りなどが増え、小幅反落した。7月限の終値は前日比0.14ドル安の53.76ドル。

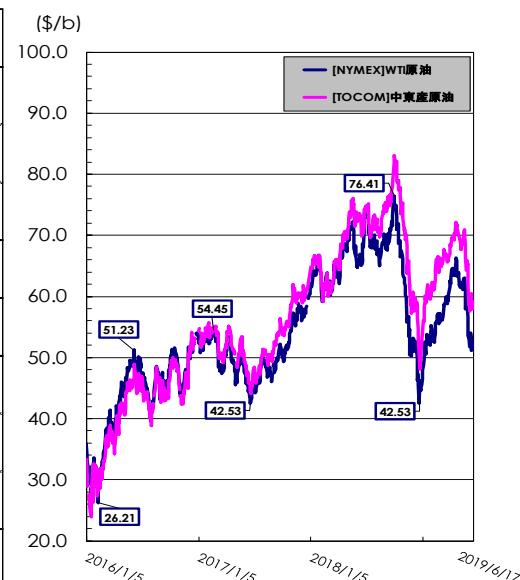
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は6月6日~12日の間59.10~61.90ドルの範囲で推移した。6月13日60.10ドル、14日60.30ドル、17日60.60ドル、18日59.50ドル、19日61.50ドルで推移した。

為替は6月6日~12日の間108.40~108.59円の範囲で推移した。6月13日108.51円、14日108.43円、17日108.66円、18日108.58円、19日108.52円で推移した。

財務省が6月19日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は、51,026円/klで、前旬比69円安、ドル建では73.83ドルで前旬比0.99ドル高。為替レートは1ドル/109.88円だった。また同日発表の貿易統計(速報・月間)によると、5月の原油輸入平均CIF価格は50,965円/klで、前旬比2,887円高、ドル建では72.99ドルで前旬比4.21ドル高。為替レートは1ドル/111.01円だった

そのような中で、6月17時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.8円の値下がり、軽油も同1.6円の値下がり、灯油は同15円の値下がり(18バレルベース)だった。ガソリンと軽油は5週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。この週(6月第4週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

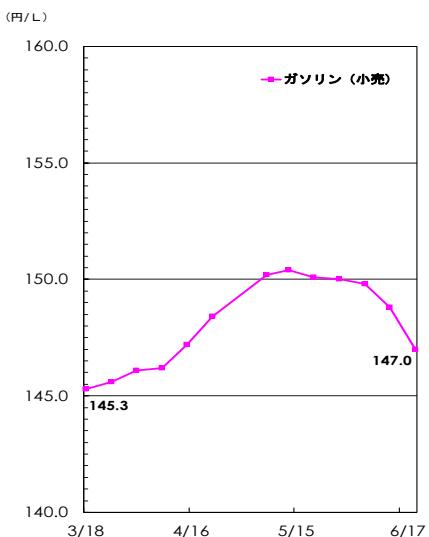
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/9 ~ 6/15	3,225	▲ 209	▲ -
	トップ稼働率 (%)	"	82.4	▲ 5.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/15	13,532	▼ -997	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/17	59.15	▼ -1.31	▼ -10.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/17	51.93	▼ -1.33	▼ -13.9
	原油 CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	73.83	▲ 0.99	▲ 3.07
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,026	▼ -69	▲ 2,465
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.88	▲ 1.65	▼ -0.78
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/17	109.66	▼ -0.14	▲ 1.91



ウィークリー オイル マーケットレビュー 19第11号

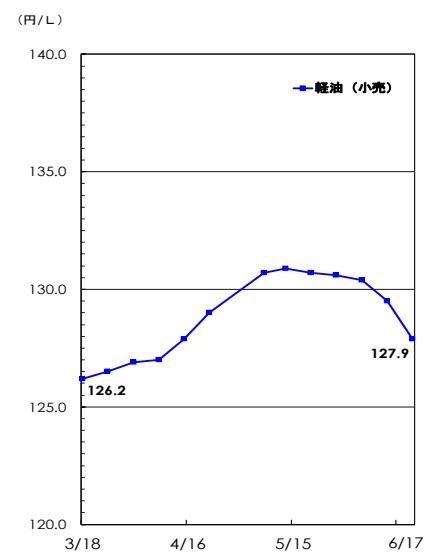
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/9 ~ 6/15	868	▲ 15	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	865	▲ 7	▲ -
	輸出	"	0	▼ -24	▲ -
	在庫	6/15	1,547	▲ 3	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/11 ~ 6/17	56.2	▼ -2.5	▼ -11.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/11 ~ 6/17	53.1	▲ 0.9	▼ -10.5
		(TOCOM/中部)	6/17	55.0	▼ -0.1
					▼ -8.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/17	147.0	▼ -1.8	▼ -5.0

※業転、先物価格は税抜き価格

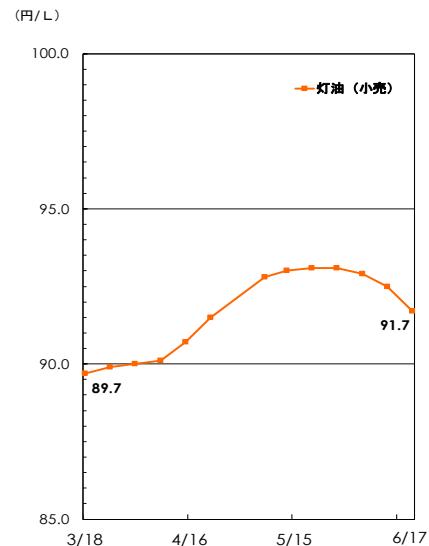


軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/9 ~ 6/15	776	▼ -3	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	614	▼ -34	▲ -
	輸出	"	148	▲ 96	▲ -
	在庫	6/15	1,399	▲ 14	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/11 ~ 6/17	60.3	▼ -2.8	▼ -8.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/11 ~ 6/17	61.9	▼ -1.7	▼ -6.6
		(TOCOM/中部)	6/17	-	-
				-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/17	127.9	▼ -1.6	▼ -2.5

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/9 ~ 6/15	118	▼ -46	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	87	▼ -53	▼ -
	輸出	"	6	▼ -6	▲ -
	在庫	6/15	1,475	▲ 24	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/11 ~ 6/17	58.7	▼ -2.7	▼ -9.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/11 ~ 6/17	55.3	▲ 0.2	▼ -11.8
		(TOCOM/中部)	6/17	57.0	▼ -0.2
					▼ -9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/17	91.7	▼ -0.8	▼ -1.0



■ 関連情報

1 海外/原油

6月19日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比310万バレル減と市場予想(110万バレル減)を大きく上回る3週ぶりの取り崩し、また、ガソリンも同170万バレル減、中間留分も同60万バレル減と市場予想に反する取り崩しとなったことから、供給過剰感が後退、買いが優勢となつたが、買い一巡後は、利食い売りなどが広がり、小幅反落となつた。この日、米国連邦準備制度理事会(FRB)は年内の利下げの可能性を示唆、これを好感する買いも入つたが、原油先物市場への影響は限定的であった。7月限の終値は前日比0.14ドル安の

53.76ドル、8月限の終値は前日比0.14ドル安の53.97ドル。

EIAによると、6月17日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.2セント値下がりの1ガロン2.670ドル(77.3円/㍑)、ディーゼルは同3.5セント値下がりの3.070ドル(88.8円/㍑)となった。ガソリンは6週連続の値下がり、ディーゼルは4週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年6月9日～6月15日に休止したトッパー能力は33.4万バレル/日で、前週に対して37.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は322.5万㎘と、前週に比べ20.9万㎘増加。前年に對しては42.2万㎘の増加。トッパー稼働率は82.4%と前週に對して5.4ポイントの増加、前年に對しては10.8ポイントの増加となつた。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となつた。ガソリン/1.8%増、ジェット/6.2%増、灯油/28.0%減、軽油/0.4%減、A重油/15.9%減、C重油/20.0%減。今週のC重油の輸入は10.0万㎘(前週比6.9万㎘増)。軽油の輸出は14.8万㎘(前週比9.6万㎘増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェット、A重油が増加となり、その他の油種で減少となつた。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加となり、その他の油種で減少となつた。ガソリンの出荷は86.5万㎘(対前週0.7%増)と2週振りで増加となり、24週連続で100万㎘を下回つた。ジェッ

ト17.7万㎘(対前週28.9%増)、灯油8.7万㎘(対前週38.0%減)、軽油61.4万㎘(対前週5.2%減)、A重油18.1万㎘(対前週3.6%増)、C重油15.9万㎘(対前週22.6%減)。

(単位:千㎘)

	今週 (6/9 ~ 6/15)	前週 (6/2 ~ 6/8)	前週比
ガソリン	865	858	▲ 7 (1%)
ジェット燃料	177	137	▲ 40 (29%)
灯油	87	140	▼ -53 (-38%)
軽油	614	648	▼ -34 (-5%)
A重油	181	175	▲ 6 (3%)
C重油	159	205	▼ -46 (-22%)
合 計	2,083	2,163	▼ -80 (-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫+今週生産+今週輸入) - (今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月15日時点の在庫は、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなつた。前年に對しては全ての油種で取り崩しとなつた

ガソリンは154.7万㎘、前週差0.3万㎘増。前年に對しては19.6万㎘少ない。

灯油は147.5万㎘、前週差2.4万㎘増。前年に對しては6.6万㎘少ない。

軽油は139.9万㎘、前週差1.4万㎘増。前年に對しては16.3万㎘少ない。

A重油は73.3万㎘、前週差1.6万㎘減。前年に對しては1.4万㎘少ない。

C重油は195.0万㎘、前週差2.3万㎘増。前年に對しては24.8万㎘少ない。

(単位:千㎘)

	今週 (6/15)	前週 (6/8)	前週比
ガソリン	1,547	1,544	▲ 3 (0%)
ジェット燃料	886	836	▲ 50 (6%)
灯油	1,475	1,451	▲ 24 (2%)
軽油	1,399	1,385	▲ 14 (1%)
A重油	733	749	▼ -16 (-2%)
C重油	1,950	1,927	▲ 23 (1%)
合 計	7,990	7,892	▲ 98 (1.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月11日～17日の原油価格は、前週比でわずかに値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストはわずかに値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、6月11日～17日の間、ガソリン109～110円台で値下がり後横ばい、軽油59～61円台で大きく値下がり後横ばい、灯油58～59円台で大きく値下がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で値下がり後わずかに値上がり、軽油64円台で値下がり後

わずかに値上がり、灯油52～53円台で大きく値下がり後横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106～107円台で大きく値下がり後ほぼ横ばい、軽油61～63円台で大きく値下がり後ほぼ横ばい、灯油54～56円台で大きく値下がり後やや値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月11日～17日の製品スポット市況は、6月4日～10日平均と比べ、先物のガソリンと灯油を除き、値下がりした。

6月第4週(6/20～6/27)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6/11～6/17千葉・川崎・中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは2.5円の値下がり、灯油は2.7円の値下がり、軽油は2.8円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.9円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は1.7円の値下がりだった。

6月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに据え置きとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

	(単位: 円/㍑)		
[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/11～6/17)	前週 (6/4～6/10)	前週比
ス ポ ツ ト 価 格	56.2	58.7	▼ -2.5
灯油	58.7	61.4	▼ -2.7
軽油	60.3	63.1	▼ -2.8

	(単位: 円/㍑)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (6/11～6/17)	前週 (6/4～6/10)	前週比
先 物 価 格	53.1	52.2	▲ 0.9
レギュラー	53.1	52.2	▲ 0.9
灯油	55.3	55.1	▲ 0.2
軽油	61.9	63.6	▼ -1.7

※上記価格は税抜き価格

	参考値 (6/11～6/17実績値)			(単位: 円/㍑)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -2.5	▲ 0.9	▼ -0.8	
灯油	▼ -2.7	▲ 0.2	▼ -1.3	
軽油	▼ -2.8	▼ -1.7	▼ -2.3	
A重油	▼ -2.8			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.8円安い147.0円、軽油も同1.6円安い127.9円、灯油は18%ベースで同15円安い1,650円(1%ベースでは同0.8円安い91.7円)だった。ガソリンと軽油は5週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。都道府県別には、値上がりがなし、横ばいが1県、値下がりが46都道府県だった。全国最安値は宮城県の141.5円(前週比2.4円安)、その次は埼玉県の141.7円(同2.3円安)、最高値は長崎県の158.5円(同1.9円安)であった。横ばいは徳島県(145.3円)の1県、最も値下がりしたのは4.0円安い沖縄県(152.2円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.5円の引き下げとなった。

今週も、原油価格はわずかに値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストはわずかに値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きとなった。次週(6月24日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値下がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/17)	前週 (6/10)	前週比	直近高値
小 売 価 格				
レギュラー	147.0	148.8	▼ -1.8	08/8/4 185.1
灯油	91.7	92.5	▼ -0.8	08/8/11 132.1
軽油	127.9	129.5	▼ -1.6	08/8/4 167.4

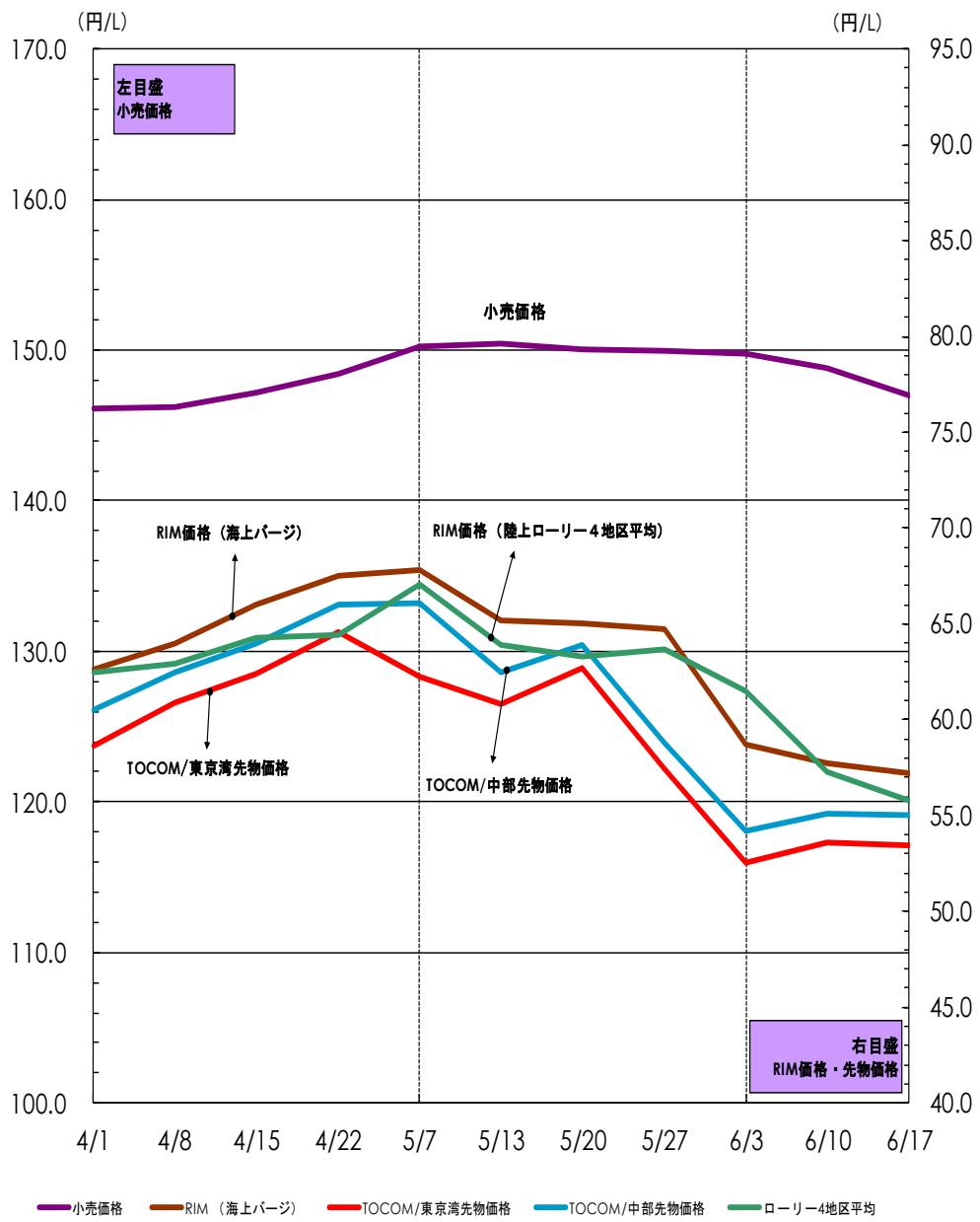
※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/4/1 ~ 2019/6/17)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2019第12号）の公表は、6/28（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。